▼ 鍛冶橋通り

◀ 昭和通り

◀ 歌舞伎座前

▼ 築地川銀座公園（校旗を受け取りスタート）

130年の歴史踏みしめて

発祥の地から神田キャンパスまでパレード

専修大学発祥の地（現在の東京・中央区銀座）に近い築地川銀座公園から神田キャンパスまでの４キロを歩くパレードが、「創立130年宣言」に先立ち行われた。「創立期」「旧制大学期」「新制大学への復興期」「大学拡張期」と本学の歴史が４世代に分けられ、それらの時代を彩った衣装をまとった演劇研究会の学生ら80人が専修大学校旗をリレー。神田キャンパスで「大学改革期」第５世代を担う日高理事長・学長に手渡された。校旗リレーに参加した相馬永胤の孫・正之さんは「明治の時代に米国へ留学し、日本で初めて日本語で授業を行ったのは大変なこと」と創立者の偉業に思いを馳せた。同じく光之さんは「父・相馬勝夫（元総長）役の学生もいて、感激しました」と話した。

▼ 東京駅前（第２リレーポイント）

▼ 外堀通り（新丸ビル付近）

▼ 東京国際フォーラム前（第１リレーポイント）

▼ 同・鍛冶橋通りを歩く鳳祭実行委員会の学生たち

▼ 明治、大正、昭和……それぞれの時代を彩った衣装を身につけた学生たち

▼ 神田神保町（三省堂書店前）

▼ 靖国通り

▼ 神田橋公園前（第３リレーポイント）

初めて日本語で経済、法律を授ける専門学校

専修大学の前身・専修学校は、明治13（1880）年9月16日、東京・京橋区南鍋町（現・中央区銀座）の簿記講習所で開校式を行った。

日本で初めて経済、法律の専門教育を日本語で組織的に行う専門学校として誕生。米国に学んだ相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者4人は、新時代を担う人材を育て、日本の発展に寄与しようと、それぞれの分野で目覚ましい活躍を遂げながら、専修学校の教壇に立ち、教育に尽力した。

日本人の食生活を変えた「明治の洋食」を再現

▶ 創立時に思いを馳せ、「明治の味」を楽しむ

「創立130年記念ランチ」

時代考証を担当した山田順子さんが解説

神田キャンパス学生ホールでは、専修大学草創期に日本の食卓にデビューした西洋料理を再現。「創立130年記念ランチ」（時代考証は山田順子さん＝昭51文＝がコーディネート）と名づけて披露された。ハンパグビーフステーキ、ビーフカツレツなど7品と飲み物などで、当時の日本人の食生活を大きく変えたメニューが並んだ。

当日の進行役は、放送研究会AREAの稲垣敬文さん（ネット情報3）、加藤令奈さん（法2）、杉浦圭さん（商2）らが務めた。

（7品中4品を紹介）

ハイカラパン

パンのフライ

ビーフカツレツ

ハンパグビーフステーキ

創立当時の紳士・淑女の衣装も披露

専大とともに 神田神保町探索 〈〈4

百年超す老舗・熟練の味　しもた屋風店舗も評判

うなぎ今荘

▶ 店主の今津荘太郎・照代夫妻

創業112年になる「うなぎ今荘（いまそう）」。独特の香ばしい匂いは、専大前交差点あたりまで漂う。昼のみの開店、メニューは「うな重」2000円一品だけで、うなぎが無くなり次第閉店に。カウンター席と7つほどのテーブル席は、会社員や常連でいっぱいになる。

店主・今津荘太郎さんは、10月に71歳になったばかりの3代目だ。

「太陽が上がるのが楽しみでねぇ」。早朝から「割き、串打ち、素焼き、蒸し、本焼き」の一連の作業をこなしてきた。

「高校時代は山岳部とスキー部にいたけど、店の手伝いで一度も山に行ってない、とんでもない部員でした」

最近は、体力のいる「割き」をはじめ早朝の仕込みは、4代目となる長男・荘一さんが担当している。

軟らかめのご飯の上に、じっくり焼いた肉厚のかば焼きは、表面はカリッと香ばしく中はふっくら。からまる割り下（たれ）は、しょうゆとみりんだけのほどよい薄味で、うなぎのうまさを引き立てる。「もっと濃いのがお好きな方もいらっしゃるけど、これがうちの味です」。明るく話すのは女将（おかみ）の照代さん。一家で老舗・熟練の味わいを保ち続けている。

1897（明治30）年に荘太郎さんの祖父、初代・荘松さんが牛鍋店を開いた。その後、ふぐなども出す割烹（かっぽう）店として栄える。さらに「うなぎなら一年中食べられる」と専門の板前を雇い、うなぎを主にした。自慢の割り下は初代から受け継がれたものだ。

専大旧校舎時代、校庭を舞台に開かれた商店街ぐるみの盆踊りには、幕の内弁当を出前。2代目・正男さん夫人の冬さんが作る煮物が評判だった。「夜になれば、法学部の先生方が大勢いらしてくださいましたよ」と照代さん。

ビルとビルの間に挟まった、しもた屋風の趣のある造りの店舗（1933年築）も評判。「千代田区景観まちづくり重要物件」に指定されている。

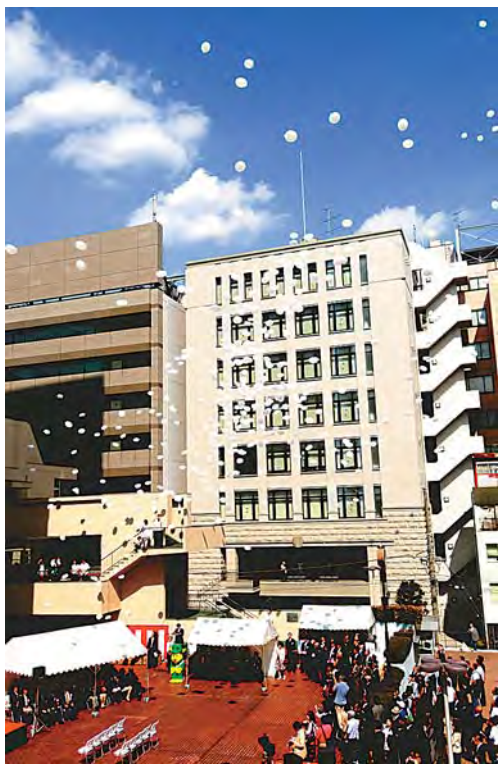
▲「うなぎ今荘」の店舗。屋根の形式は千鳥破風（3階）と唐破風（1階）。支える蛙股（かえるまた）の装飾も珍しい

＊うなぎ今荘＝千代田区神田神保町3―15―1☎03（3263）3061

青空も祝福―多彩に「130年」イベント開催

9月16日、専修大学は創立130年を迎えました

専修大学の晴れの日を祝福するかのような好天に恵まれた9月16日。抜けるような青空の下で「創立130年宣言」を発した日高義博理事長・学長は「私たち第5世代が行うべき責務は、本学の21世紀ビジョン『社会知性の開発』に努め、4人の創立者が思い描いた社会の骨格を担う人材を輩出し続け、大学としての品格と大学力を次の世代へとつなぐことである」と力強く語った。



▲　晴れわたった神田キャンパスに〝130年〟を祝う風船が放たれた

▶「創立130年宣言」を力強く発表する日高理事長・学長

▶　創立者に扮した学生と創立者のご家族が一緒になって

「創立者同時代展」始まる

▲　創立者の子孫の方々も一緒にテープカット

▲　進行は放送研究会のメンバーが行った

当日は、本学が所蔵する創立者4人の書や所蔵品などを展覧する「創立者同時代展」が神田キャンパス7号館で始まり、オープニング・セレモニーが行われた。テープカットは創立者4人の子孫の方々らが行った。

創立者の墓前に報告

日高理事長・学長、坂田隆石巻専修大学長が目賀田種太郎墓地（大田区・池上本門寺）に、荒木敏夫副学長が駒井重格墓地（台東区・谷中墓地）に、三島英雄副理事長が田尻稲次郎墓地（文京区・護国寺）に、甘竹秀雄校友会長が相馬永胤墓地（港区・青山霊園）を訪れたほか、専大関係者ら多数が創立者墓参を行った。

池上本門寺にて

青山霊園にて

生田キャンパス最寄り駅に130年記念フラッグを掲出

「祝専修大学　創立130年生田キャンパス開設60年」の記念フラッグ67本が、8月27日から生田キャンパス最寄り駅の小田急線向ケ丘遊園駅前（川崎市多摩区）のバスロータリーをはじめ、区役所通り登栄会商店街＝写真＝や中央銀座商店街など、同駅前商店街に掲出されている。期間は11月16日までの予定。

図書館特別展

二つのモダーン　江戸文化とフランス革命

11月に東京芸術劇場で開催

専修大学図書館特別展「二つのモダーン　江戸文化とフランス革命」が東京・池袋の東京芸術劇場で開催される。

展示されるのは、本学図書館にこのほど所蔵されることになった江戸時代後期小説（戯作）のコレクション「向井家江戸期和本コレクション」から120点と、フランス革命期史料コレクションから120点のあわせて240点。

本学に所蔵される「向井家江戸期和本コレクション」は約4000作品。この中から曲亭馬琴の読本『南総里見八犬伝』の草双紙化作品や二代国貞による浮世絵「八犬伝犬の草紙」全作のほか、月岡（大蘇）芳年の浮世絵なども展示される。

会期中に記念講演会も開かれる。

▽会期＝11月17日（火）～11月22日（日）

▽時間＝10時～20時（最終日は17時まで）

▽会場＝東京芸術劇場5F　展示ギャラリー

※入場無料

★記念講演会［募集人員80人。事前申し込み必要］

▽11月21日（土）「江戸文化戯作への誘い」講演・青木美智男専修大学史編集主幹／板坂則子文学部教授ほか

▽11月22日（日）「フランス革命像をベルンシュタイン文庫に求めて」講演・近江吉明文学部教授／小井高志立教大学教授ほか

いずれも時間は14時～16時30分

※詳しくは特設サイトhttp://www.two-modern.com/へ。問い合わせは専修大学図書館☎044(911)1274

胸像製作会社の㈱ナガエ様に感謝状

9月16日、4人の創立者の胸像（9月号1面に掲載）を製作した㈱ナガエ様（富山県高岡市）に感謝状を贈呈した。写真（左）は同社の熊木信雄代表取締役専務。